

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 綾町立 綾中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒880-1302

宮崎県東諸県郡綾町大字北俣497-1

E-mail aya-jhs@miyazaki-c.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 87名 女子 87名 合計 174名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳 ~ 15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「ふるさと綾を愛し、心豊かでたくましく自立心あふれるチーム綾中」を学校の教育目標とし、「『ユネスコスクール・ESD推進校』としての使命を基に、『持続可能な社会の担い手』として、ふるさと綾を愛し、ふるさとに誇りをもつ生徒を育成する。そのために、全教育活動を通して、『学力』『自立心』『体力』の向上をめざして、職員が一丸となり活力ある学校づくりをする。」を学校経営方針としている。本年度は、町教育委員会の指導のもと、「『持続可能な社会の担い手』としての児童生徒の育成」を小中共通の研究主題と設定することになった。

そこで、具体的には昨年度の研究の課題であった授業改善と、ESDの充実による質の高い学びを柱に据えて、研究に取り組んでいくことにした

ここでは、主に総合的な学習の時間（てるはの時間）の取組を学年ごとに紹介する。

① 「自然への探究」～1学年の活動

1学年では宿泊体験学習を御池少年自然の家で実施し、エコパーク（綾）とジオパーク（霧島）の違いについて考える機会とした。また、町内の照葉樹林やビオトープの見学を行い、自然と共生するまち「綾」を探る活動を行った。

(写真①綾町ビオトープ探索)

②「人への探究」～2学年の活動

2学年では、修学旅行の際、京都で自主研修を行った。世界的観光都市京都の謎を探ることで、ふるさと綾町と比較し、綾町の観光都市としての魅力の発信なども考える機会とした。(写真②)

③「自分への探究」～3学年の活動

職場体験学習(綾人体験学習)を通して、綾町の人について学び、自分の生き方を考える機会とした。(写真②農業体験の様子)

また、地域貢献活動として小学校と合同で清掃作業を行った。

① ビオトープ探索

② 京都自主研修

③ 3年生の農業体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野(複数選択可)

| | | | |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

| | |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間（複数選択可）

| | |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

・ユネスコスクールとしての活動は、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間と教科横断的な指導計画を立てるなど指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善を行った。特に総合的な学習の時間（てるはの時間）では、3年間の系統図をもとに探求的な学習に力を入れるとともに、キャリア教育の充実に努めてきた。（別紙参照）

また、中学校3年間だけでなく、小学校からの9年間を見据えた「ESDカレンダー」の整備を始めたところである。（別紙参照）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

・本年度の研究のテーマとも合致しているため、校内では研究部を中心に校内研究の一環として取り組んである。さらに、町教育委員会の指導のもと、本年度より小中連携推進部会の中で、小学校・中学校・教育委員会でESDの推進に努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。）

・本年度より、生徒の変容を評価するために、ふるさと綾町の特色について年度初めと年度末の2回、生徒に記述させる取組を行っている。その結果、年度初めと比べて、年度末の方が理解と考えが深まっている生徒が数多く見られた。（別紙参照）

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

・学校HPにはその都度、活動の様子をアップしている。文化祭では総合的な学習の時間（てるはの時間）の活動を中心に、それぞれの学年で発表した。また、町主催の「こども議会」の中では、2年生が修学旅行での自主研修で綾町と京都を比べる発表をし、その後町長へ綾町活性化の提案を行った。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

・綾町エコパーク推進室の室長を招き、エコパークについての理解を深める学習活動を実践した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

・他のユネスコスクールとの交流はない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

・総合的な学習の時間では、探求的な学習に力を入れており、生徒は自ら考え解決していこうとする学び方が身につつつある。

（3）平成 30 年度の活動計画

・中学校での各学年での活動は、今年度の活動とほぼ同じである。ただ、霧島の新燃岳の噴火の影響で、1年生の宿泊体験学習の場所が、御池自然の家から行勝自然の家へと変更になる。「祖母・傾・大崩 ユネスコエコパーク」に指定された地域でもあるので、あらたな比較ができそうである。また、昨年までの小中連携推進部会が、新たに小中一貫教育まなび改善委員会になり、小学校と連携しての9年間を見据えたESDカレンダーの整備を行う。